

長野県支部会報

発行：(公社)日本技術士会長長野県支部
編集：広報委員会
会員数：正会員210名、準会員57名
(令和3年10月末現在)

WEB支部年次大会開催

昨年度、新型コロナウイルスの影響により中止された支部年次大会が、2021年度はオンライン方式（Zoom）で開催されました。長野県支部としては初めての試みでしたが、トラブルもなく無事開催できました。今回の支部年次大会では、CPD講演会、合格者紹介も行っています。CPD講演会では、「一級河川裾花川の災害史・改修史に学ぶ」：宮下英樹氏、「技術者倫理」：有賀良夫氏、「合格者体験」：中山哲也氏の講演をいただきました。合格者紹介は、昨年度年次大会が中止となったため、令和元年度と二年度の一次・二次試験合格者の紹介となりました。

支部CPD講演会もすべてオンライン方式（Zoom）となりました。現場見学会も含めたCPD講演会も計画されていましたが、担当幹事の工夫によりオンラインに開催方式を変更し、県下各地区でCPD講演会を開催しています。

WEB支部年次大会 2021.6.19

・支部年次大会
・CPD講演

「一級河川裾花川の災害史・改修史を学ぶ」宮下英樹氏
「技術者倫理」有賀良夫氏
「合格者体験談」中山哲也氏

・合格者紹介

日本技術士会長長野県支部 年次大会
2021年6月19日（土）
13:00～年次大会Zoom入室可

・あいさつ・議事進行：小口支部長（議長）
・2020年度事業報告・2021年度事業計画案：
白田 池田弘美 (進行)野村一部(英樹) 小口 藤平 (支部... 黒澤之IZURU...
・2021
・参加店

「技術者倫理」
「一級河川裾花川の災害史・改修史を学ぶ」宮下英樹氏
「合格者体験談」中山哲也氏
「技術者倫理」有賀良夫氏

CPD講演 有賀良夫氏
1. 技術士プロフェッション宣言

CPD講演 宮下英樹氏 国立長野高専客員教授 宮下秀樹
博士(工学)・技術士(建設部門)

自己紹介

中山 哲也
住まい：大町市
入社年：2009年
前職：漬物屋さん
出身校：北里大学（青森県）
獣医畜産学部生物生産環境学科

株式会社 アンド

仕事内容（建設コンサルタント）
・砂防堰堤詳細設計。
・橋梁補修、橋梁詳細設計。

仕事のやりがい
・自然災害が増える現代において、設計し公共の安全につながるということ。
・携わった業務が続々施工完了しており嬉しい。

趣味・ハマってること
・妻と子供と遊んでいます。（長女8才、長男0才）
・庭いじったり、山登ってみたり。

CPD講演 中山哲也氏

INDEX

- 1 長野県支部の会員構成と組織
- 2 支部長挨拶
- 3 新幹事の紹介
- 4 新幹事の紹介
- 5 2021年に行われた行事紹介①、②
北信地区CPD講演会・南信地区CPD講演会
- 6 2021年に行われた行事紹介③、④
中信地区CPD講演会・北信地区CPD講演会
- 7 2021年の広報活動・今後のCPD行事の予定
- 8 長野県から委嘱を受けた委員会等の紹介
- 9 会員投稿1「地方自治体への社会活動支援と
司法支援活動」
- 10
- 11 会員投稿2「技術者へのこだわり」
- 12 支部協賛団体・編集後記

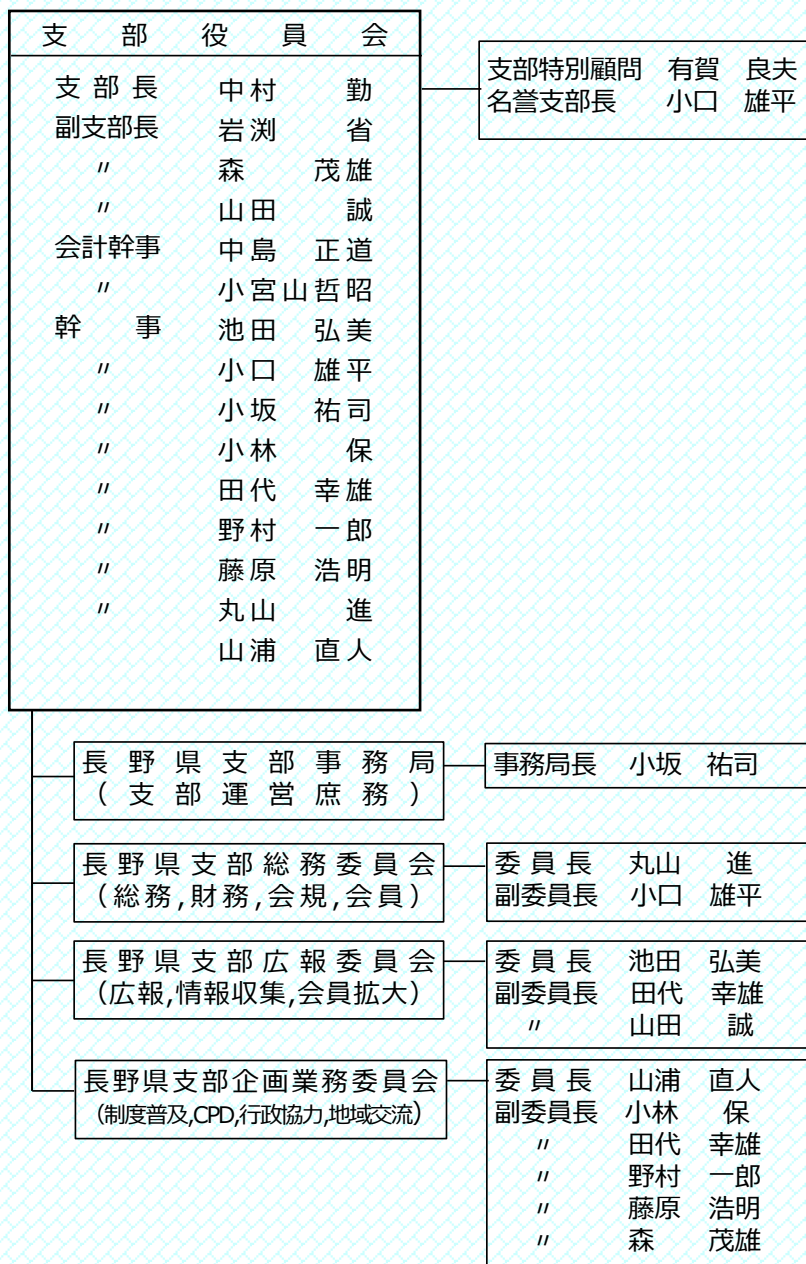
長野県支部の会員構成と組織

長野県支部の会員構成（2021年10月末現在）

会員数			
No.	技術部門	正会員	準会員
1	機械部門	21	10
2	船舶・海洋部門	0	0
3	航空・宇宙部門	0	1
4	電気電子部門	20	7
5	化学部門	4	3
6	繊維部門	0	0
7	金属部門	5	1
8	資源工学部門	0	0
9	建設部門	114	23
10	上下水道部門	18	6
11	衛生工学部門	2	0
12	農業部門	9	5
13	森林部門	13	1
14	水産部門	0	0
15	経営工学部門	5	3
16	情報工学部門	3	3
17	応用理学部門	14	3
18	生物工学部門	2	2
19	環境部門	11	5
20	原子力・放射線部門	0	0
21	総合技術監理部門	54	0
部門別の合計数		295	72
会員数		210	57

注1：複数部門の登録者・合格者等があり、部門別では重複して計上しています。
注2：準会員は、技術士第一次試験合格者、日本技術者教育認定機構(JABEE)認定課程修了者、技術士第二次試験合格者で技術士未登録の方です。

長野県支部組織図(2021・2022年度)



会員勧誘・同報メール登録のお願い

(公社)日本技術士会の会員になると、長野県内の会員は自動的に長野県支部の会員となります。長野県支部の情報交換や組織力のアップのために、会員数の拡大は最重要事項です。是非、未加入の資格取得者がお近くいらっしゃれば、お声をかけていただき、一緒に長野県支部を盛り上げていきましょう。

また、事務局（日本技術士会及び長野県支部）からの連絡は、月刊技術士のほかに電子メールで行っております。そのために、電子メールを本会に登録されていない方は、日本技術士会ホームページから登録・変更ができますので、是非登録をお願いいたします。なお、本人情報の案内メール区分のところを「当会からの案内メールを受信する」にしてください。

※(公社)日本技術士会の規定により、月刊誌の送付先住所（自宅住所か勤務先所在地が選べます）によって会員の方の地域組織（地域本部や県支部）への所属が自動的に決められることとなっています。

— 支部長就任 にあたり —

会員の皆様には、それぞれの立場で、技術力を活かしてご活躍のことと存じます。

私は、2021年6月の年次大会より支部長を引き継ぎました。小口前支部長には長年に亘り、当技術士会にご尽力いただき誠にありがとうございました。あらためまして、身の引き締まる思いでございます。これからの任期、日本技術士会長野県支部活動に微力ながら精一杯務めさせていただきます。何卒、よろしくお願い申し上げます。

さて、県内には、多部門に渡る技術士の皆さんがおります。長野県支部の会員も毎年、少しずつ増え現在は、正会員210名・準会員57名の方々に在籍していただいております。皆様は、様々な領域で活躍されていますが、その活動は、どうしても自分の職域内が中心となっているのが、現状かと思えます。技術士としての力を発揮させるには、それぞれの専門分野での繋がりや地域支部での繋がりとの二つのコネク트가関連し合い、よりその力が発揮されるものと考えられます。

長野県は県土が広く、文化経済圏が違います。その特徴を生かし、長野県全体としての地域社会経済の発展に貢献できるよう努めることは、技術士会としての重要な役割かと思えます。また、技術士としての見識を広げるため、多種多様な技術分野の方々と交流、情報交換を図ることは、視点の違いや考えを知れる良い機会となります。このため、長野県支部では技術士の資質向上を目指し、多様なCPD行事を企画・運営しておりますので、活用いただければと思います。

なお、技術士制度改革により、2021年9月よりCPDの活動実績の管理及び活動を可能とする公的な仕組みが構築されました。

今回の制度は、技術士法で規定された「技術士の資質向上の責務」に基づくものであり、技術士の主体的な意思によるCPDの履行を促し、技術士の能力向上や技術士資格の活用促進に繋がっていかうとするものです。2022年4月からは、新基準に基づく運用となります。長野県支部の技術士の皆様に、この制度の趣旨をご理解いただければと思います。

2021年11月には、COP26が開催されました。気候変動へのグローバルな対策としての温室効果ガス削減のための緩和策が確認されました。二酸化炭素に加え、メタン削減目標も示され、日本では2050年カーボンニュートラルを目標としています。また、同時にローカルな対策として、気候変動による影響の被害を最小限に抑え地域社会に貢献する防災や農業分野等へ技術開発等の適応策も必要となります。信州気候変動適応センターの情報等を活用しながら、それぞれの専門分野で技術士として果たす役割もあるかと思えます。

コロナ禍の中、様々な社会経済活動が制約されています。一日でも早く、このパンデミックが収束し、通常の日常に戻り、長野県支部活動が行われるようになることを祈念して支部長挨拶とさせていただきます。

長野県支部
支部長
中村 勤
(森林部門)



新幹事の紹介①

「2021年度幹事選出選挙」 支部幹事15名信任 新幹事を紹介します！

2～3月におこなわれました「2021年度長野県支部幹事選出選挙」にて小坂祐司氏、小林保氏、田代幸雄氏、藤原浩明氏、丸山進氏の新幹事5名を含む幹事15名が信任されました。新幹事を紹介します。

支部幹事の一任期は2年で、支部組織図にあるようにそれぞれが各委員会に所属し活動します。新幹事の加わった新体制長野県支部にご協力をお願いします。

昨年度まで幹事を務められた有賀良夫氏、臼田裕一氏、劔持淳二氏、平林正守氏、大変お疲れさまでした。

(アイウエオ順)

氏名：小坂 祐司（建設部門/総合技術監理部門）
所属：株式会社アンドー

【自己紹介】

塩尻市出身、現在は安曇野市在住です。松本市に本社を置く建設コンサルタント会社で取締役技術本部長をしています。専門は鋼構造及びコンクリート・道路で、橋梁や道路の調査・設計業務に携わっています。今年度より新任幹事として長野県支部の事務局長を務めさせていただきます。不慣れなことも多いですが、信州の魅力の発信と長野県の技術力の向上のため精一杯頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



氏名：小林保（建設部門/総合技術監理部門）
所属：株式会社こうそく

【自己紹介】

長野市で生まれ育ちました。大学の土木科を卒業して、官庁に就職し、転勤で様々な場所で勤務して来ました。土木技術者と行政事務員の仕事です。官庁を退職して暫くは東京の会社に勤務しましたが、長野市に戻ってきました。官庁を退職する頃に、技術士の試験に挑戦しました。かなりの高齢ですが未だ少し元気が残っていると思います、今の会社に再就職し、土木の設計を手伝っています。故郷長野の技術力を高める役に立ちたい、と妄想して技術士会に入会しました、・・・そんな力がある訳無いか・・・。支部幹事としてCPDなどの手伝いができるの良いと思っています。技術者の仲間が懇親を深めることも大切と思います。



新幹事の紹介②

氏名：田代 幸雄（上下水道部門/建設部門/総合技術管理部門）

所属：日本クリーンアセス株式会社

【自己紹介】

出身は木曾郡王滝村、地元の大学を卒業後、東京の建設コンサルタントで3年間、松本市の建設会社での2年間を経て、長野県の技術職員とし33年間勤めました。現在は、上・下水道を維持管理する会社に移り、諏訪市の自宅、長野市の会社を行き来する二重生活をおくっています。県の職員時代は、下水道事業や諏訪湖の環境整備事業に長く係わりました。これらの技術の経験がどう評価されるかと考え、技術士に挑戦しました。その後、25年間、技術士と名乗り仕事をこなしてきました。仕事に多少余裕が出てきたところ、これから活躍される皆さんに技術士として、何か役に立ちたいとも考えていました。今回、支部の役員の皆さんからのお勧めもあり、支部活動の一翼を担わせていただきます。数回の幹事会を通じて各分野の技術風土の違いを感じつつ、自然環境や社会情勢の難しい時代、各々の特技を活かし社会貢献しなくてはならないと感じています。よろしく、お願いします。



氏名：藤原 浩明（機械部門）

所属：長野日本無線株式会社

【自己紹介】

出身、住居共、長野県安曇野市。県外の大学を卒業し、8年間東京の電子通信機器メーカーに勤務していましたが、25年前に長野県に戻り、現所属先に勤務しています。長年、情報通信分野の機構設計業務に従事してきました。

技術士を取得したのは、4年前。その間、技術士としての活動は、長野県支部のCPD講演会への参加をメインとしてきました。

今回、所属先の技術士会（日本無線技術士会）が協賛団体である事もあり、長野県支部の方からお声かけ頂き、幹事を行うことになりました。専門である機械分野を生かしながら、他分野との融合の取り組みについて最先端の情報を発信し、少しでも皆様にご満足いただけるような活動を目指していきたい思います。微力ではありますが、宜しくお願い致します。



氏名：丸山進（建設部門/上下水道部門/総合技術監理部門）

所属：長野県北信建設事務所

【自己紹介】

私の出身地は長野市ですが、転勤で、佐久、諏訪、大町など県下各地に赴任いたしました。近く地方公務員を退職予定のため、第2の人生を豊かに充実したものにすべく、会員各位からの様々な技術情報や専門知識を吸収して研鑽を重ねたいと考えております。

また、本年度から支部幹事並びに総務委員長を拝命しました。総務委員長としては、支部における各種活動が会員各位の自主的な取り組みによって持続的に行えるように、微力ながら環境整備やお手伝いをしたいと考えております。また、今年度の新たな取り組みとしては、県内市町村からの工事監査の依頼に対し、支部会員が対応できるような体制づくりに向け、本部の社会委員会工事監査支援WGとの調整や登録会員の実現に向けて取り組んで参りたいと考えております。不慣れではありますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



2021年度の行事紹介①

北信地区 CPD講演会

共催：地盤工学会
建設コンサルタンツ協会

『信州の地震の今』

—オンライン講演会—

開催日：令和3年2月6日（土）
(Zoom)

講演 1

「信州でおきている地震の今」

講演 2

2014年 長野県北西部地震(神城断層地震)の震度分布と特徴
大規模アンケート調査の結果と分析

地震防災 & CPD講演会
令和3（2021）年2月6日(土) 13:00～15:00

信州大学理学部研究支援委員
津金 達郎 氏

信州の地震の今

講師 津金達郎氏（信州大学理学部研究推進支援員）

主催 日本技術士会長野県支部 共催 地盤工学会信州地盤部会
建設コンサルタンツ協会長野県地域委

長野県は活断層による大地震で強い揺れに見舞われる可能性が極めて高い地域と言われて
います・・・長野県内にある活断層の評価や、ど
こでも起こり得る地震の揺れやすさのマップ
など、津金氏の個人研究の成果と、信州大学
震動調査グループによる調査・研究の成果を
ご紹介していただきました。

参加者74名

2021年度の行事紹介②

南信地区 CPD講演会

『諏訪湖の汚染と回復の経過』

—オンライン講演会—

開催日：令和3年3月6日（土）
(Zoom)

講演

諏訪湖の汚染と回復の経過

諏訪湖の汚染と回復の
経過

信州大学名誉教授、諏訪湖クラブ会長
沖野 外輝夫 氏

諏訪湖の水質浄化と環境再生

日本技術士会
長野支部講演会
令和3年3月6日（web対応）
沖野外輝夫
（信州大学・名誉教授、諏訪湖クラブ・会長）

諏訪湖の汚染回復について、諏訪圏域の経済
発展による汚染からの回復へ、沖野教授自ら
が携わってきた取り組みとその成果について、
丁寧に解説していただきました。
活発な質問に、予定していた質疑応答時間を
オーバー。盛況でした。

参加者43名

2021年度の行事紹介③

中信地区 CPD講演会

『開智学校校舎(松本市)の 国宝指定について』

—オンライン講演会—

開催日：令和3年10月2日（土）
オンライン（Zoom）

講演

「旧開智学校校舎の国宝指定」

国宝旧開智学校校舎 学芸員
遠藤 正教 氏



近代学校建築としては初めての国宝指定。長野県の国宝指定としては10件目、建造物では66年ぶりという旧開智学校校舎について、国宝指定の経緯から建築的特徴、教育的特徴などに加え、建築を手がけた大工棟梁に至るまで、詳細な解説をお聞きすることができました。

参加者34名

2021年度の行事紹介④

北信地区 CPD講演会

—オンライン講演会—

日本技術士会 長野県支部 CPD講演会

令和3年11月27日(土) 13:00～16:15

開催日：令和3年11月27日（土）
オンライン（Zoom）

講演 1

「小規模水力発電について」

信州大学工学部 機械システム工学科
准教授 飯尾 昭一郎 氏



日本技術士会長野県支部CPD講演会
小規模水力発電について

信州大学 工学部
機械システム工学科
准教授 飯尾 昭一郎

小規模水力発電について、研究開発、設置されている小水力、マイクロ水力発電技術を紹介していただきました。農業用水や下水道などの利活用拡大可能性を知ることができました。

誤差と精度では、工業計測とバイオ検査の両分野に携わってこられた多くの経験・実績をもとに、工業分野と医療分野での対象物に対する視点の違いなど貴重なお話を聴講することができました。

参加者59名

講演 2

「誤差と精度 — 工業計測とバイオ検査の世界」

大野システム技術研究所
代表 大野 知彦 氏



日本技術士会長野県支部CPD講演会 (レジュメ)

誤差と精度～工業計測とバイオ検査の世界～
令和3年(2021年)11月27日
大野知彦(電気電子部門)

1. 略歴
2. 工業計測とバイオ検査の比較
3. 医工連携の難しさ
4. 工業計測の世界
5. バイオ検査の世界
(1)NATでの事例
(2)バイオセンサーでの事例

— 長野高専技術士説明会 —

開催日 : 令和3年12月9日 (木) 14:30~16:00

場 所 : 国立長野工業高等専門学校 長野高専技術士説明会

対象学生 : 環境都市工学科 3学年 (42名)

— 長野高専OB・OG技術士の活躍 —

講義1 : 「女性土木技術者と技術士資格の取得」樋口 美樹 氏 (上下水道部門)

講義2 : 「継続的な資質向上の必要性和行政の仕事内容」土屋 博幸 氏 (建設部門/総合技術監理部門)

講義3 : 「卒業生として皆さんに伝えたいこと」富田 賢司 氏 (上下水道部門)

令和3年12月9日
環境都市工学科 3学年

JABEE認定校である長野高専の環境都市工学科(3年生)の授業にて、技術士説明会を行いました。平成30年度より始めた活動で、今回が4回目になります。

新型コロナウイルスの影響が小康状態となっていることから、昨年度と同様に対面での講義で行うことができました。また講師には昨年度と同じ同校OB・OGの3名の技術士をお願いを致しました。

講師からは、それぞれ従事している業務の紹介や、技術士取得までの道のり、技術士資格の活用などを自らの体験や実績から講義していただきました。高専OB・OG技術士としてそれぞれの専門分野で活躍されている姿を感じとることができました。

今回は就職活動や進学には少し余裕のある3年生が対象でした。技術士のみならず、資格取得に対してもまだ関心が高くない感じが伺えましたが、OB・OG技術士の講義から、技術士やその他資格取得の有用性などを感じとられたのではないのでしょうか。



樋口 美樹 氏



土屋 博幸 氏



富田 賢司 氏



これからの CPD行事

長野県支部では、下記のCPD(継続研鑽)行事を計画しています。

多くの会員皆様のご参加をお待ちしています。

1. 東信地区CPD講演会

▶開催日 : 令和4年1月22日 (土) 14:00~16:00

▶場 所 : オンライン (Zoom)

▶講 演 : 「美笹深宇宙探査用地上局の役割と研究課題」

宇宙科学研究所 宇宙物理学研究系准教授 村田 泰宏 氏

2. 南信地区CPD講演会

▶開催日 : 令和4年3月上旬

▶場 所 : 現場見学を含む講習会 (諏訪)

▶講 演 : 「諏訪流域下水道域における下水道エネルギーポテンシャル分布について」

「温泉熱発電 : 諏訪地域エネルギーの地産地消の事例について」

※日程調整中

※諏訪域内予定

オンライン方式へ変更する場合あり

3. 日本技術士会講演会及び令和3年度技術士試験合格者祝賀会

▶開催日 : 令和4年4月16日 (土) 14:00~16:30

※合格者祝賀会 16:30~18:30

▶場 所 : ホテル信濃路 (長野市)

長野県から委嘱を受けた委員会等の紹介

長野県から（公社）日本技術士会長野県支部が委嘱を受けている委員会等を紹介します。

1. 長野県建設工事紛争審査会（事務局 建設部建設政策課）

- ・建設業法に基づく建設工事の請負契約に関する紛争の解決を図る委員会（民事紛争の解決を行なう準司法的機関）。審査会には、中央審査会（国土交通省）と都道府県審査会（都道府県）がある（本会は後者の委員会）。
- ・紛争処理には、「あっせん」、「調停」、「仲裁」の3種類がある。審査は原則非公開で行われる。
- ・委員は、特別職の非常勤地方公務員とされ守秘義務が適用される。
- ・委員構成15名 *法律（弁護士6）、土木（2 内大学1、本支部1）、建築5（建築士5）、その他2
- ・任期二年：令和2年5月28日～令和4年5月27日）

2. 長野県ため池安全対策検討会（事務局 農政部農地整備課）

- ・農業用ため池の適正な保安全管理を目的に実施する点検、整備、管理体制の構築等について意見を聴取する検討会。
- ・今期においては、耐震性点検結果と対策、流域治水におけるため池の活用・低水位管理による洪水調節効果等について、現地調査（被災ため池、対策工事、監視システム等）と併せて実施。
- ・現地調査・検討会には、地域振興局・市町村・コンサルタント等の関係者も参加。
- ・委員構成4名 *大学2、農研機構1、本支部1
- ・開催期間：令和4年3月31日まで



支部特別顧問 有賀良夫
（建設／総合技術監理）

日本技術士会NEWS

— 新たなCPD実績の管理及び活用 — 始まる

2021年4月26日に発出された大臣通知および9月8日の文部科学省省令改正に基づき、新たに技術士CPD活動実績の管理及び活用制度が始まりました。

長野県支部は、令和3年11月5日オンライン（Teams）にて、「新たなCPD実績の管理及び活用の仕組みに関する説明会」を日本技術士会 技術士制度検討委員会委員長の中川裕康氏により開催しました。

技術士のCPD活動は、技術士資格取得後もその資質能力を維持するだけでなく、さらに向上させることを目的としています。科学技術の高度化などに伴い、技術士に求められる資質能力は日々高度化、多様化してきています。これらに対応していくために、十分なCPD活動を行っていくことが必要であり、その活動実績を証明することも求められてきます。

日本技術士会では、これらの技術士CPDに対する取り組みとして、「技術士CPDガイドライン」、「技術士CPD管理運営マニュアル」を作成し公開しています。CPD活動実績は技術士の資質向上の証明です。会員皆様の積極的なCPD活動実績により継続研鑽されることを期待します。

新たなCPD実績の管理及び活用については、公益社団法人日本技術士会のホームページに掲載されています。是非一覧されますようお知らせします。

※公益社団法人日本技術士会「技術士CPD活動実績の管理及び活用制度の開始」

https://www.engineer.or.jp/c_topics/008/008032.html

地方自治体への社会活動支援と司法支援活動

若手技術者必見！

—各地域本部青年技術士会への入会案内—

森 茂雄（電気電子部門）

中部本部青年技術士委員会の紹介（会費無料）

皆さんは、技術知見を高めることを目的とした若手技術者（技術士、技術士補、修習技術者）にて運営する会をご存じでしょうか。本会では、毎月会員による技術講習会や外部講師による講演会、自らのスキル向上を目的とした参加者全員によるワークショップも実施しています。異分野の技術者間の交流を通じて、自己研鑽と活力ある人的ネットワークを構築しませんか。会員の年齢制限はなく幅広い年齢層の方が参加しています。（入会希望者は本投稿の森まで連絡下さい）



知的書評合戦(例会の様子)

長野県「地域発元気づくり支援金」事業に採択 （私の役割は、企画・運営の支援と外部講師）

脱炭素社会の啓蒙啓発活動を加速させるため、地元行政と協同で令和3年度県重点テーマ「2050ゼロカーボンに向けた取組の推進」に挑戦。当町は、検討委員会を発足し13名がメンバーと共に取り組んでいる。



大井ダム研修会(行政職員)

【再生可能エネルギー現地研修】

●大同電力（現関西電力）大井発電所

大正13年に建設された日本初の発電用ダム式発電所であり日本一の洪水吐ゲート数をもつ大井ダムは、当時200kmに亘る送電線を建設し関西方面に送電した。この巨大な電力システムを見学し次の課題を学びました。

- ・スケールメリットから地域分散（地産地消）型発電形態への転換の必要性和地元経済や雇用、環境との調和を図った再生可能エネルギーの導入方法について
- ・木曽川水力開発の歴史と電力王福沢桃介と電力有用論（電力の必要性）と水力利用論（火力から水力への転換）を唱えた福沢諭吉との人間関係、そして何故この地に諭吉の肖像と「独立自尊」の碑を残したのか、その謎に迫る。

●信州F・POWERプロジェクト

森林と木材利用サイクルの持続的な確保に向けて平成25年にスタートし令和2年度にバイオマス発電施設が稼働しました。課題は、木材のサプライチェーンの確保であり水を資源とする水力との違いを学びました。



塩尻市内バイオマス研修会(行政職員)

【環境とエネルギー講座】

次の課題を実践形式で修得してもらいました。

- ・地球温暖化問題、日本の現状と動向、家庭の二酸化炭素排出、家庭における地球温暖化対策の考え方と理解、創エネルギーの理解
- ・「地球環境問題と脱炭素社会」「エネルギーミックス」「SDGsと気候変動対策」の関係性
- ・中学生へは、上の内容を分かり易く多面的で多角的な視点にまとめ、三学年同時にオンライン形式で授業を行いました。



環境とエネルギー講座(行政職員)

校長先生からは、本授業の目的は自分で社会を変えようとする意識の改革にある、と全生徒に向かっての説明がありました。



左が中学校長(オンライン授業)

【太陽光発電所の最適設計】

●太陽光発電シミュレーションによる発電所設計

年間に発電する電力量最大の説明変数は、方位、傾斜角、アレイ間隔、周囲の影の影響とパネルの電気結線方向等となります。ではこの最適化問題をどのように解けばよいのでしょうか。結論は、高度な発電シミュレーションを行うことです。長野県環境部ゼロカーボン推進室は「信州屋根ソーラーポテンシャルマップ」を公開していますが、実用レベルではありません。そこでシミュレーションソフトにより精度を極限まで高めるため、行政職員2名にマンツーマンでレッスンを行いました。なお中学生各学年へは、パソコンを用いた演習形式で理解を深めてもらいました。

※技術士知名度の向上（マスコミから技術士の発信）

日付	ヘッドライン	新聞社
0806	上松2050年にゼロカーボン	市民タイムス
0807	再生可能エネルギー現地研修会	中日木曾
0820	大井ダムで再生可能エネルギー現地研修会	中日恵那
0904	ゼロカーボンを50年までに目指す	中日
0901	ゼロカーボン 理解深める	市民タイムス
1001	再エネ 先進地視察	市民タイムス
1008	生徒がゼロカーボン学ぶ・技術士講師に迎え	市民タイムス
1103	太陽光発電を模擬体験	市民タイムス

【総合文化展への出展】

「現地研修会」「環境とエネルギー講座」「太陽光発電所最適設計」の中間報告と家庭における地球温暖化対策と創エネルギー設置に関する検討結果を展示

【一般者向けの講座と省エネ診断】

一般住民向けの現地見学会を終え、年度末にかけて省エネ講座と省エネ創エネ診断を行う予定です。

公民館サークル活動（代表）の立ち上げ

デジタル社会や脱炭素社会への適応を目的とした高齢者向けのサークル活動「学問のすすめに学ぶ会」を立ち上げました。講座では、Wi-Fi、3G廃止、YouTube、Zoom、G I G Aスクール、G A F A、SDG sなどを基礎から学んでいます。

長野県シニア大学木曾学部の講師

明治から昭和にかけ火主水従→水主火従→火主水従を経て原主火従で安定するも、東日本大震災で一変し脱炭素が加わり再エネ主の時代へと転換した。木曾川水力開発の役割は、文明開化と電力不足解消の時代から地球温暖化防止対策に変貌を遂げたことを学びました。

裁判所専門委員三期5年目の就任

専門委員制度とは、紛争解決に専門的な知識経験を必要とする場合に、その分野の専門的知識経験を十分に有する専門家に裁判所のアドバイザー的な立場で訴訟手続き全般に関与するものです。身分は、特別職の国家公務員であり具体的内容は、「争点及び証拠の整理等・証拠調べ・和解」ですが、公正公平な立場と秘密保持は勿論のこと誠実でなければなりません。（訴訟案件3件目進行中、期日26回）

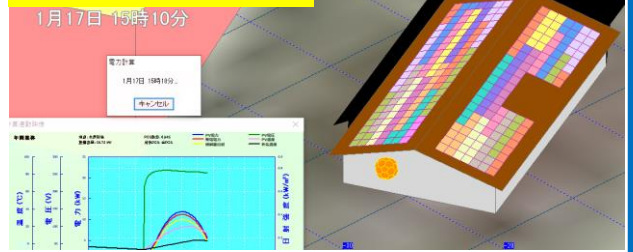
おわりに

今回は、現役技術者の活躍の場に相応しい青年技術士会の紹介と自身の社会貢献活動について掲載させて頂きました。社会貢献という公益を第一に考えた渋沢栄一が説く仁義道徳は、公益法人に通ずるものであり社会貢献

PV最適設計レクチャー



3D. CADモデルの作成



太陽光発電模擬体験(中学校)



大井ダム見学(公民館講座)

イコール支部活動でありたいものです。web CPDが定着し高度な技術を無料で受講できる機会が地域本部や支部をはじめ赤門技術会等の団体が主催しています。冒頭紹介した青年技術士会は、各地域本部に設置され「誠実・勤勉・友愛」の精神で全てを直営で運営しています。技術者の皆さんには中部青年技術士会を、女性には東京を紹介いたします。ご興味のある方は遠慮なく連絡ください。

森 茂雄

(もり しげお)

長野県支部 副支部長
関西電力(株)
技術士(電気電子部門)
APECエンジニア
エネルギー管理士
1級電気工事施工管理技士
労働安全コンサルタント
社会福祉主事
setuputg0055@gmail.com



技術者へのこだわり —50歳の決意—

池田 弘美（建設部門／上下水道部門）

4月、上下水道部門（下水道、下水処理）を取得できた。現在、南信の建設会社に所属し下水処理施設の維持管理に従事している。小さい頃思い描いてきた仕事とは全く違う分野に入り込んできている。ただ変わらないのは「技術者」であること。

1. 憧れ：自動車好き

小学生のころから自動車が好きで、夢は「自動車を設計すること」だった。夢実現には自動車メーカーに入ることが必要であり、そのために長野高専進学を選んだが、社会経済は一変（オイルショックなど）し、それまで抱き続けたメーカーへの道を断念した。しかし、自動車に関わることは諦めなかった。自動車ディーラー（販売会社）に入り、整備に携わることで自身の自動車好きを満足させようとした。

2. 転機：自動車から建設へ

整備に関する高レベルの資格取得や、数多くの難解整備の実績などから、絶対的な自信を身に着けた。社内の技術専門部署への移動も望んだが、営業職への配置転換が待っていた。

これまで身に着けた技術はこの会社では必要とされていなかったのかと考えると、それまでの自信はもろくも崩れ落ちた。このまま会社において営業を続けていけば役職は上がっていくかもしれないが、自身の目指してきたものとは方向が違う。自分は所謂「技術端」を目指してきたはず。

迷いの中で仕事をしているうちに、地元建設会社からの強い誘いでその会社（同級生が社長）に入った。43歳、自動車から建設への転換である。

3. 決意：技術士を取ろう

何も知らない建設の世界。それでも、やればなんとかなるだろう—という「根拠のない自信」があった。

建設に関わるいろいろな資格を取得することにより知識を身につけようと考え、施工管理技士、重機の運転や検査者、公害防止管理者なども取得してきた。しかし、自信を持てるものが無い不安があった。自動車整備に関しては絶対的な自信があったが、建設の分野ではそれは無い。

そんな中、「技術士」という資格の存在を知った。科学技術に関する資格の中で最高レベルらしい。では、それを取ろう。それで技術者と呼べる存在になろう。50歳の決意である。

4. 建設部門

私の所属した会社や周辺の建設会社に技術士を持っている人がいない。一次試験は合格できても二次試験の論文の書き方がわからない。そこで、よくある「二次試験対策講座」を受講した。これまで論文などろくに書いたことがないから、すんなりとはいかなかった。

「技術士は何回目で合格したかではないですよ。取ったか取らなかったかですよ。取れるまで諦めないことですよ。」と講師の方から言われ、自信がついた。それから数回の受験後に合格することができた。59歳になっていた。

5. 生涯目標：技術者でありつづけるために

私の目標は『生涯技術者であること』である。幼い頃からの憧れであり、目標としてきたこと。その技術が自動車から建設、下水道と移り変わってきているが、技術者であることがこだわりなのである。

私にとって、技術士が全てではなく、技術者であり続けるために最も必要なツールなのである。「70歳すぎても技術士を取得する人はいるんですよ。」という二次試験対策講座の講師の言葉を出す。

今63歳。生涯「技術者」であり続けるために、まだまだ頑張っていくつもりである。

池田 弘美

(いけだ ひろみ)

長豊建設株式会社

技術士
(建設／上下水道)



長野県支部協賛団体を募っています

日本技術士会長野県支部では2018年6月より協賛団体の制度を発足し、現在5団体より協賛法人として支部運営の御協力を頂いております。支部活動にご協力いただける皆様のご協賛を募集しています。

・協賛団体とは

長野県支部では、地域的な活動の活性化と地域社会への貢献を目指し活動しております。このような活動主旨にご賛同いただける企業・団体様からのご協賛を、広く募集しています。

・申込方法

所定の様式(協賛団体申込書)で申請をお受けするため、まずは支部事務局にお問い合わせ下さい。協賛金は、1口当たり10,000円(年間)です。支部役員会の承認後、協賛団体証を発行致します。

・メリット

- (1) 協賛団体の代表又はその代理の者は、当支部年次大会に出席し意見を述べるができる。
- (2) 協賛団体は、当支部会誌又はその他刊行物の配布を無償で受け、当支部の事業成果を当支部の了承を得て利用することができる。
- (3) 協賛団体は、当支部が主催する講演会等（懇親会は除く。）に協賛金1口当たり2名まで無料で参加することができる。

※「長野県支部運営における個別事項に関する手引き」より抜粋

長野県支部の協賛団体 (2021年12月1日時点)

長野技研コンサルタント株式会社

(<http://ngc-kk.jp/>)

代表者：臼田裕一(代表取締役)

〒381-2204 長野市真島町真島1292

株式会社アンドー

(<http://www.kkandoh.co.jp/>)

代表者：嶋田隆(代表取締役)

〒390-0851 松本市島内3481-1

株式会社みすず総合コンサルタント

(<http://www.e-misuzu.com>)

代表者：増沢延男(代表取締役)

〒386-1102 上田市上田原1073-4

株式会社高見澤

(<https://www.kk-takamisawa.co.jp/>)

代表者：高見澤秀茂(代表取締役)

〒380-0813 長野市緑町1605-14
高見澤ダイヤモンドビル7階

日本無線株式会社 技術士会

(<http://www.jrc.co.jp>)

代表者：日本無線株式会社 技術士会
会長 曲淵正敏

〒381-2289 長野市稲里町834

Cooperative
Organization

編集後記(長野県支部 広報委員会・事務局)

新型コロナウイルスも第5波の縮小に伴い小康状態となっているように思われます。第6波がくることなく終息していくことを願うばかりです。順次進められる規制緩和により、社会経済活動の盛り上がりが期待されます。このコロナ禍で大きなダメージを受けておられる個人、企業など数多くあると思われませんが、早期の回復、復興を期待するものです。長野県支部会員みなさまの企業や職場はいかがでしょう。

今回の第6号発行に際し、大変お忙しい中、寄稿して頂いた執筆者の方々、編集作業を手伝っていただいた皆様に感謝申し上げます。今後も、1年に1回の発行を計画していきます。是非ご協力をお願いいたします。



天龍峽大橋(三遠南信自動車道)

- 飯田市（天竜川に架かる）
- 構造形式：鋼上路式アーチ橋(PC床版)
（バスケットハンドル型固定アーチ）
- 橋長：280m(アーチ支間210m)
- 2019年11月開通

国内の大規模な鋼上路式アーチ橋で最も扁平な形状のスリムな橋。国指定名勝・天龍峽の範囲にあり、水面（天竜川）より80mの高さに架かる。自然景観への影響を最大限に抑えるため、スレンダーな構造となっている。桁下には「そらさんぽ天龍峽」（桁下歩道）を設ける。名勝の形状変更にあたっての理念として、「架橋による負の影響を最大限補う」から実現した。

（写真：支部幹事 池田弘美

文：日経コンストラクション 2021.4.26 抜粋）

公益社団法人 日本技術士会 長野県支部

【支部事務局】

〒390-0851 長野県松本市島内3481番地1 株式会社アンドー内

TEL 0263-48-0480/FAX 0263-48-0009

E-mail: penagano@penagano.org

URL : https://www.engineer.or.jp/c_shibu/nagano/

※ 日本技術士会長野県支部会報第6号(令和4年1月発行)

企画・編集 : 支部広報委員会 池田弘美・田代幸雄・山田誠

校正・印刷製本 : 支部事務局 小坂祐司・雨宮幸絵

本会報(カラー)は、日本技術士会ホームページ→地域本部・県支部・部会・委員会→長野県支部のページに載せています。